

## 平成31年度 研修全体計画

### 1. 校内研究のねらい

- ・職員の専門的力を高める。
- ・職員の力を合わせて行われる研修は、子どもたちの望ましい変容を促し、学校教育目標を具現化する。

### 2. 研究主題

自分の考えを持ち、表現し、学び合うことで、課題を解決できる児童の育成  
～深い学びにつながる対話的な活動の充実を通して～

#### < 主題設定の理由 >

##### (1) 学校教育目標より

本校では、「心身ともに健やかで創造性豊かな子どもを育てる」を教育目標とし、目指す児童像を次のように掲げている。○「心豊かで思いやりのある子ども」○「ねばり強いようぶな子ども」○「自ら考え学習する子ども」

本主題の「自分の考えを持ち、表現し、学び合うことで、課題を解決できる児童の育成」を目指すことは学びを広げ、深めることにつながるとともに、他者との伝え合いを通して、心の豊かさを育むことにもつながり、目指す児童像にせまる一助になると考える。

具体的児童像

- ① 聞く・話す・書くを大切にする子ども
- ② 根気よく取り組み、学習内容を身につける子ども
- ③ 自主的に学習に取り組むことを習慣化する子ども
- ④ 思考力や表現力を伸ばす子ども
- ⑤ 学習の進め方を身につける子ども

##### (2) 今日の課題から

算数科の目標は、算数的活動を通して、数量や図形についての基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、日常の事象について見通しをもち筋道を立てて考え、表現する能力を育てるとともに、算数的活動の楽しさや数理的な処理のよさに気付き、進んで生活や学習に活用しようとする態度を育てる。である。2020年度から新学習指導要領による教育が実施される。大きなポイントとして、主体的で深い学びを実現に向けた授業改善に向けて3つの視点が挙げられている。① 学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「**主体的な学び**」が実現できているか。② 子ども同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「**対話的な学び**」が実現できているか。③ 習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「**深い学び**」が実現できているか。という3つの視点を意識して研究に取り組む必要があると考える。

### (3) 児童の実態とこれまでの研究過程から

平成27年度から29年度まで算数科を通して、自分の考えを持ち、表現できる子の育成に取り組んできた。多くの児童は、大勢の前での発表は苦手だが友達の発表を聞いたりするのは好きという傾向にある。そのため、ペアトーク、グループトークを取り入れることで、発表することへの抵抗感を徐々に減らしてきた。そして、少しずつではあるが発表への抵抗感が減ってきた。また、自分の考えを持っていない児童にとっては思考の手助けともなっていた。しかし、思考が十分でない児童もいて全体での話し合いが不十分に終わってしまうこともあった。

一昨年度までの3年間で、「見出す」「見通す」「考える」「深める」「まとめる」という問題解決的な学習過程の定着を図った。そして、「考える」過程における児童の思考を具体化する操作活動を工夫したり算数的な表現を活用したりして説明する活動、自力解決した自分の考えをペアやグループでお互いに説明したり聞き合ったりして交流する活動を通して、筋道を立てて考え、表現する児童を育てる実践を行ってきた。成果として、算数的な表現を用いてノートやワークシートに自分の考えを表す力が少しずつではあるが付き、多様な考えを、根拠を明らかにして筋道立てて説明する力が付いた児童も増えてきた。

昨年度は、学年の目指す児童像をもとに、「深める」過程での学びの深まる伝え合い活動をより活発にし、思考力・表現力を高めていくことをねらいとして、学び合いの深まる伝え合い活動を、どの場面で、どのような視点のもとに取り入れることが有効なのか、学年の実態に応じて実践を通して検討した。また、児童の多様な考え方を、視点を明確にして比較検討する話し合い活動や算数的に合理的な解決法を追求するための課題の吟味・発問の仕方を工夫した。今年度の取り組みとして、昨年度に引き続き、実態をもとに目指す児童像を設定し、手立てを改良していく必要がある。

#### 目指す児童像・手立て

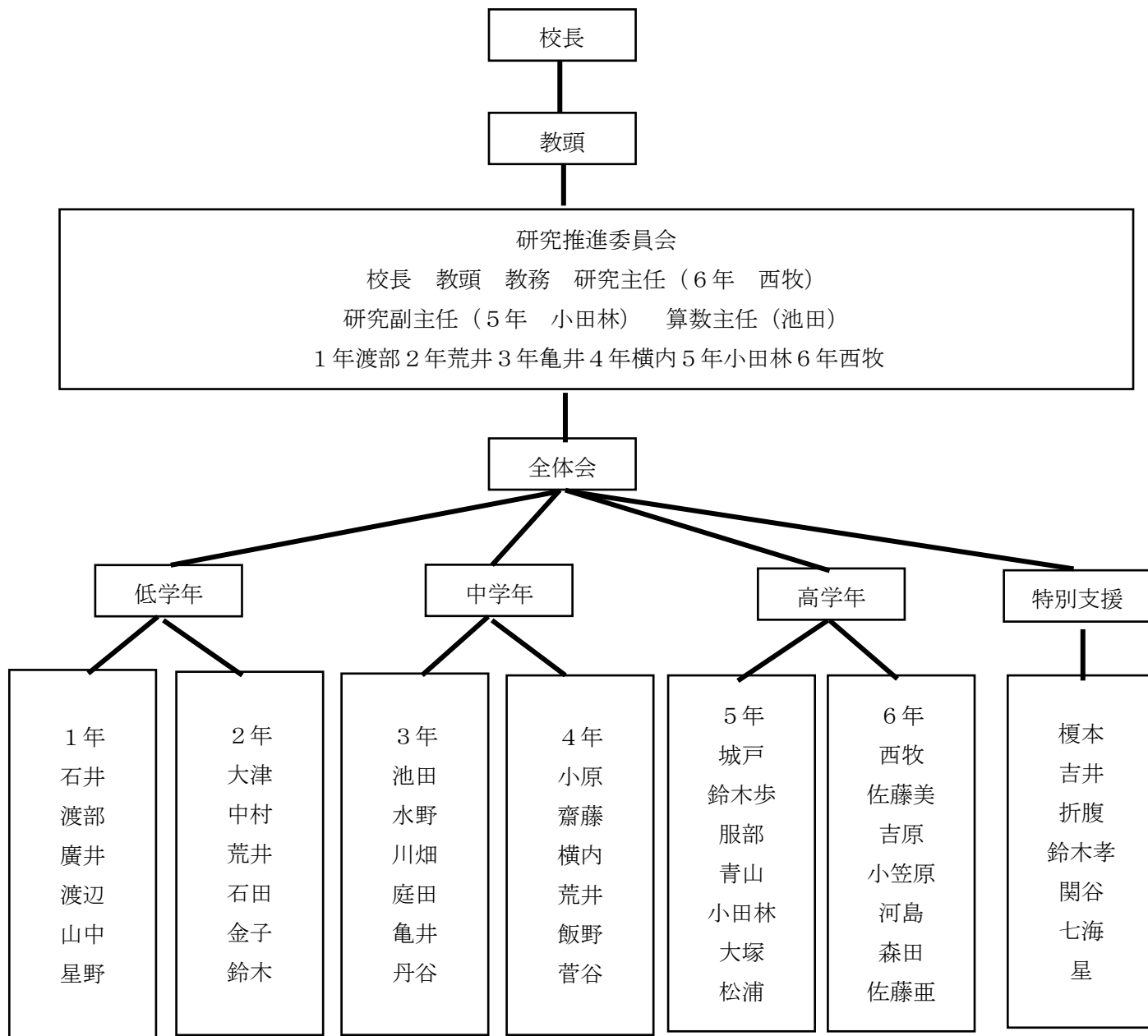
	低学年	中学年	高学年
目指す児童像	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えを(わかりやすく)話すことができる子</li> <li>友達の話最後まで聞くことができる子</li> <li>話題にそって話し合おうとする子</li> <li>◎自分の考えと友達の考えを比べられる子</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>相手や目的に応じて、調べたことなどについて筋道を立てて話すことができる子</li> <li>話の中心に気を付けて聞くことができる子</li> <li>◎自分の考えと友達の考えを比較し、より良い考えを見つけられる子</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>目的や意図を明確にし、表現できる子</li> <li>相手の意図を捉え、自分の意見と比較しながら考えをまとめることができる子</li> <li>互いの立場や意図をはっきりさせながら見通しを持って話し合うことができる子</li> <li>◎自分の考えを伝えたり、友達の考えを聞いたりして、考えを深めていく子</li> </ul>
手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>自力解決の時に具体物を取り入れた活動を通して自分の考えをもちやすくする。</li> <li>教材や単元によって、ワークシートやヒントカードを作成し、効果的に活用させる。</li> <li>相づちをうったり、質問したりして友達の考えを聞くようにさせる。</li> <li>友達と自分の意見を聞き比べるようにさせる。</li> <li>話し合う場をできるだけ多く取り入れる。</li> <li>二人組や小グループなど形態を変えて、伝え合う活動を何度も取り入れていく。</li> <li>は・か・せ・い・う(算数の場合)等のように考えをまとめ上げるまでの視点を意識させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自力解決の時に言葉・数・式・図などを用いて自分の考えを表現できるようにする。そのために、既習事項や単元の流れなどを掲示する。</li> <li>比較検討を全体で行う前にペアトークやグループなどでの話し合いを取り入れる。話し合いが短時間で有効にできる方法を取り入れる。</li> <li>友達の考えと自分の考えを較べて聞くことを意識させる。そのために、どの考えを取り上げるのか吟味する。</li> <li>掲示物を活用し、話し合う時には、質問や意見、付け足しをしながら話すようにさせる。(同じ意見でも自分の言葉で説明できるように意識させる。)</li> <li>は・か・せ・い・う(算数の場合)等のように考えをまとめ上げる上での視点を意識させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題に対して自分の考えを言葉・数・式・図・表・グラフ・具体物などで明確に表現させる。</li> <li>自力解決や比較検討の場面で、観点を明確にしてペアトークやグループトークを設定し、理解を深め自信を持って取り組ませる。</li> <li>問題解決の目的に応じて既習事項を取捨選択して活用することを意識させる。</li> <li>は・か・せ・い・う(算数の場合)等のように考えをまとめ上げる上での視点を意識させる。</li> </ul>

### 3. 研究の仮説

「自分の考えを持てる場を必ず設定し、学びの深まる伝え合い活動を取り入れれば、表現する力が身につくだろう」

### 4. 研究の進め方

#### (1) 研究組織



- ① 研究推進委員会・・・校長, 教頭, 研究主任, 各学年1名を持って構成する。
  - 校内研究の企画推進
  - 研究の方向性の協議
  - 全体会の司会や記録を行う。
  - 公文書, 予算に関わる内容の検討
- ② 全体研究会・・・ 校内研究の運営, 研究協議や先進校視察の報告  
研修計画や内容の決定, 確認など共同研修を深める場とする。
- ③ 各部会・・・・・・ 部会受業の指導案作成・検討, 授業研究の実践・協議・反省
- ④ 各学年部会・・・ 研究主題, 仮説につながる具体的な指導方法を検討し, 共通理解を図り, 実践していく。

## (2) 運営方法

### ①研究推進委員会

- ・研究の企画・立案・調整を行うとともに先進校の資料収集や紹介をして研究の推進を図る。
- ・月に1回の定例会を設ける。また, 必要に応じて開催する。
- ・授業研究会の企画・運営及び研究資料を整理し, まとめていく。

### ②部会研修

- ・各学年の研究推進委員会を中心に研究(研修)を進める。
- ・各学年部会を中心にして研修を進める。
- ・必要に応じて学団研究(研修)を開催する。
- ・一人1授業を行い, 話し合いや助言を参考にさらに深めていく。
- ・児童の実態把握をして集約と分析をする。

### ③全体会

- ・研修全体会は年間6回開催する。(研修計画・理論研修会・研究授業全体会・研修のまとめと次年度の方向性)また, 必要に応じて開催する。

## 5. 年間計画

月	主な内容	形態	助言者
4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究の概要など研究計画の企画・立案</li> <li>・今年度の研修計画についての提案・討議</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研推</li> <li>・全体</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内</li> </ul>
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の取り組みについて及びパーソナルサポートシステムの準備</li> <li>・研修全体会に向けての準備</li> <li>・第一回校内授業研について、6月の研修計画について</li> <li>・学年の研究内容検討</li> <li>・授業研究準備 単元・授業者の検討(パーソナルサポートの活用)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研推</li> <li>・全体</li> <li>・学団</li> <li>・学年</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内</li> <li>・外部講師</li> </ul>
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導案検討(パーソナルサポートの活用)</li> <li>・第一回授業研究会運営について</li> <li>・実態調査の集計について、7月の研修計画について</li> <li>・第一回校内授業研究会(20日・木) 講師( )</li> <li>・授業研究の成果と課題</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研推</li> <li>・全体</li> <li>・学団</li> <li>・学年</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内</li> <li>・外部講師</li> </ul>
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業研究の成果と課題をまとめる</li> <li>・第二回、三回校内授業研究会運営について</li> <li>・9月の研修計画について</li> <li>・学力テストの分析、第二回、三回校内授業研究準備</li> <li>・現職研修</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研推</li> <li>・全体</li> <li>・学団</li> <li>・学年</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部講師</li> </ul>
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現職研修</li> <li>・学力テストの分析、第二回、三回校内授業研究にむけての教材研究</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学団</li> <li>・学年</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内</li> </ul>
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2学期の取り組みについて</li> <li>・第二回、三回校内授業研究にむけての教材研究</li> <li>・指導案検討(パーソナルサポートの活用)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研推</li> <li>・全体</li> <li>・学団</li> <li>・学年</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内</li> </ul>
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第二回校内授業研究会運営について</li> <li>・第二回校内授業研究会(10月17日・木) 講師( )</li> <li>・授業研究の成果と課題</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研推</li> <li>・全体</li> <li>・学団</li> <li>・学年</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内</li> <li>・外部講師</li> </ul>
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第三回校内授業研究会運営について</li> <li>・第三回校内授業研究会(11月20日・水) 講師( )</li> <li>・授業研究の成果と課題</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研推</li> <li>・全体</li> <li>・学団</li> <li>・学年</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内</li> <li>・外部講師</li> </ul>
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1月の研修計画について 来年度に向けてのアンケート内容検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研推</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内</li> </ul>
1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2月の研修計画について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研推</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内</li> </ul>
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究のまとめについて</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研推</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内</li> </ul>
3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート集計と次年度の方向性 次年度の研修の課題及び方向性</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研推</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内</li> </ul>